

湖水地方エクスプローラー・ツアーガイド THE LAKES EXPLORER - TOUR GUIDE

この「湖水地方エクスプローラー」は、1つのツアーにしか参加できる時間がない、というお客様にはぴったりのツアーです。1日で湖水地方の様々な魅力を満喫していただくことができますでしょう。

このツアーでは、通常の観光ではなかなかできないような体験、自然に親しんだり、新鮮な空気や素晴らしい景色をも体験していただけます。グラスミアやサプライズ・ビューなどの有名な地も訪れますが、可能な限り観光客の少ないルートで周ることにより、湖水地方の人々や場所、歴史、景色などにも触れていただけるよう配慮しています。クラモック・ウォーター、バタミア、エアラ・フォース、ワーズワース・ポイント、ラングデイル、古い教会、ストーン・サークル、スコットランドの眺めなど、これらはハイライトのほんの一例です。



「湖水地方を体験」、これがこのツアーのすべてです。昔ながらの村や旬のローカルな食べ物が味わえる農家を訪ね、ガイド付きのミニ・ウォーキングで最高のシャッターチャンスに出会う、こんなユニークな数々の体験は一生の思い出となるでしょう。



Experience it - remember it!

TOUR HIGHLIGHTS

ツアー・ハイライト

- トラウトベック・ビレッジ湖水域で最古の村
- カークストン・パス 湖水域で最も高い地点を走る道路
- アルスウォーター -
イングランドで最も美しいといわれる湖のひとつ
- ワーズワース・ポイントワーズワースの代表作「水仙」にひらめき
を与えた場所
- エアラ・フォース (滝)
- キャッスルリグ・ストーン・サークル 湖水域のストーンヘンジ
- サプライズ・ビュー 息をのむような素晴らしい景色
- ダーウェント・ウォーター 湖水域北部の美しい湖
- フロック・インーおいしいローカル・フード
が食べられる農場のカフェ
- ホニスター峠
- クラムック・ウォーターとバタミア 美しい小さな2つの湖
- ホームメードのアイスクリーム
- バセンスウエイト・レイク
- サルミア
- グラスミアとライダル・ウォーター
- ダブ・コテージウィリアム・ワーズワースの家
- ブリッジ・ハウスとアンブルサイド

1. TROUTBECK (トラウト・ベック)

トラウトベック・ビレッジの家々は17世紀に建てられたもので、地元産の素材でできています。伝統的な家屋は石造りで分厚い壁に丸い煙突、小さな窓が特徴です。湿気を寄せ付けないよう、壁の外側には漆喰が塗られています。一部の家のベランダには、外に羊毛を広げて乾かすために使われていた、スピニング・ギャラリーが残されています。一村に入っていくと右側にその例が見えます。



1923年に、ピーターラビットの作者であるビアトリクス・ポターは、谷の麓にあるトラウトベック・パーク・ファームを、土地開発から守るために自ら購入しました。そして農場の側に羊飼いのための家を建て、共にハードウィック種の羊を増やすことに努めました。現在私たちが、丘の上に多くのハー

ドウィック種の羊が見ることができるのも、彼女の努力の賜物です。ビアトリクス没後、土地や不動産のすべてがナショナル・トラストに寄贈されました。この際、寄贈された土地でハードウィック種の羊を絶やさず飼育することが条件とされました。ビアトリクスは1943年に77歳で亡くなり、14の農場と4,000エーカーの土地がナショナル・トラストに寄贈されました。



谷の反対側は「ハイ・ストリート」と呼ばれる長い山脈です。山頂の脇を通っているのはローマの道の遺跡で、南部のアンブルサイドと北部のハドリアヌスの壁とを結んでいました。信じ難い話ですが、わずか100年前にはこの道で馬のレースが行われていました。

2. KIRKSTONE PASS (カークストン・パス)

この道を上っていくに連れ、左側にウィンダムミア湖がはるか下の方に見えてきます。またカークストン採石場—地元の建築材料の重要な資源—も見えます。この道は、冬になると雪が道路脇にある石壁を超えるほど積もるため、通常真っ先に閉鎖されます。カークストン・パスの高度は500メートル弱で、峠の頂上には「幽霊が出る」と噂されている古めかしい宿、カークストン・インがあります。「カークストン」という名前は、左側に見える「大きな尖った石」（教会の尖塔のように見えます）から来ています。昔のバイキングの言葉で教会は「Kirk」といいますが、湖水地方にも北欧から来た人々が住んでいたという証拠でもあります。



この道を進むと、ドライ・ストーン・ウォールと呼ばれる石でできた壁が見えてきます。この周辺の壁は300年ほど前に造られたもので、セメントなどは一切使われていません。この壁は、もともと異なるオーナーが所有していた牧場を区切る役目をしていました。このほか、一部の壁は、冬の間の羊の避難所として造られました。

この道を下った左側には、ブラザーズウォーターと呼ばれる、湖水地方でも最も小さな湖が見えます。この名前は、湖で釣りの最中に溺れた2人の兄弟にちなんで付けられました。ブラザーズウォーターはアルスウォーターから4キロ離れていますが、かつてこの2つの湖は繋がっていて、1つの湖だったことがありました。

右側に見えるのは、ハートソップ（鹿の谷の意）という小さな集落で、周囲の山々には湖水地方に残存する野生の赤鹿の群れが生息しています。

3. ULLSWATER（アルスウォーター）

アルスウォーターはバイキングの長の名前「Ulf（アルフ）」にちなんで名付けられた、湖水地方ではウィンダミアに次いで2番目に大きな湖です。長さ12キロ、幅0.8キロ、深さ62メートルで4つの小島があります。アルスウォーター・バレーは1万5,000年前にカークストーン・パスから流れてきた氷河によって形成されました。氷河は巨大なU型の谷を削り取り、最後に溶けてアルスウォーターが出来上がったのです。初期のこの谷の居住者は、アルスウォーターを「ダーク・レイク」と呼び、水面下にはモンスターがいると信じられていました。アルスウォーター湖岸のグレンリディングという小さな村は、かつて英国で最も重要な鉱業の村の一つであり、1962年に閉鎖されるまで140年にわたって操業されました。採掘された主な金属は鉛と銀です。同じ頃、この湖岸は、新たに台頭してきた裕福な実業家たちに大きな邸宅を建てるのに望ましい場所と捉えられていました。私たちの右側、アルスウォーターの北岸には多くの印象深いビクトリア朝の家が見えます。これらの家の多くが改装され、今ではホテルとして使用されています。



1859年に操業を開始したアルスウォーター・スティーマー（蒸気船）は、当初グレンリディングの採掘労働者に食べ物や生活必需品を運んでいましたが、すぐに観光客たちから人気を集めました。現在、4隻が操業中で、このうち最も古いものは1877年に建造されたものです。

4. WORDSWORTH POINT (ワーズワース・ポイント)

ワーズワース・ポイントはアルスウォーター湖岸のグレンコイン湾 (Glencoyne) 付近の小さな地域を指し、美しい野生の水仙が、ウィリアム・ワーズワースと妹のドロシーが谷を散策した当時の様子を物語っています。ワーズワースは湖水地方で最も著名な詩人のひとりで、ワーズワース自身は鉄道やウィンダミアの蒸気船の開通に反対する運動をしていたにもかかわらず、この地を訪れた最初の観光客たちは彼の著作に惹かれてきたという皮肉な結果となりました。ワーズワースは1850年にライダル・マウントで亡くなりました (享年80歳)。



1802年4月15日にドロシーは日記に「水仙が風に揺られて・・・今まで水仙がこれほど美しく見えたことはなかった」と記しました。

1804年、ワーズワースは「湖のほとり 木立の下に 微風に翻りつつはた 踊りつつ・・・」という有名な「水仙」の詩を書きました。

ワーズワース兄妹がこの地域を散策していた当時は道がなく、現在道路が湖岸に沿って走っている辺りまで水仙が広がっていました。野生の水仙はローマ人によってもたらされたと言われていますが、このところ年々雑種の大型品種による浸食に脅かされています。雑種の水仙の一部は一般人によって植えられたもので、ナショナル・トラストの森林監視員がこれらを排除しなければなりません。ワーズワース・ポイントはアルスウォーターと周囲の山々の最も美しい眺めが見られる場所の一つであり、英国を代表する画家、ターナーはここからアルスウォーターの絵を描きました。この絵はワーズワース基金が所有しグラスミアの博物館に収められています。



5. AIRA FORCE (エアラ・フォース／滝)

エアラ・フォースは湖水地方で最も有名な滝です（フォースは昔のバイキングの言葉で「滝」の意）。滝の水は崖の頂上から約25メートル落下し、運が良ければ太陽光線が水しぶきに当たってできる有名な「エアラ・レインボー」も見ることができます。アルスウォーター渓谷の眺めも壮観です。

滝の上から下まで周囲を約20～30分歩きますが、段差が急で雨の後は滑りやすいので、どうぞお気をつけください。



6. CASTLERIGG STONE CIRCLE (キャッスルリグ・ストーン・サークル)

ストーンサークルに移動する途中、私たちは活気あるケズウィックの街を通っていきます。この街の人口は5,000人で、イングランド地方のアドベンチャー・アクティビティの中心地として知られており、ほとんどの店でハイキング用品を取り扱っています。多くの観光客が山登りや湖のセーリング、川でのカヌー、パラグライダーなどをこの地域で楽しめます。

キャッスルリグのストーンサークルは非常に特別な場所です。石だけではなく、ケズウィックの200メートル上にある低い丘の平らな頂上という場所、そして山々が成す環の中に位置する、というこのすべてが特別なのです。5,000年前の技術のレベルを考えれば、この環を造るのにどれだけの力が必要とされ

たでしょうか。この環には38の石がありますが、1つの石を運んで持ち上げるのに70人もの力が必要であったと推察されています。



なぜ太古の人々がこのストーンサークルを建てたのかは誰にもわかりませんが、よほどの理由があったに違いありません。儀式の場か、または石斧―地元で採れた石でできた最初の道具―のような重要な商品を取り引きするための市場だったかもしれません。または季節の訪れを記すために使われたか、それとも埋葬室だったのかもしれませんが。ストーンサークルは、建造されて4、5,000年の間、多くの異なる目的で使用された可能性が高いようです。

ウィリアム・ワーズワースは湖水地方の旅でこの地を訪れた際、非常に混雑していると言ってあまり好まなかったようですが、皆様は人の数に関わらず、ここへ来れば360度山に囲まれたこの景色に感動されることでしょう。ここでは石の周りを自由に歩き回ってこの特別な場所をじっくり見学していただくことができます。



7. DERWENTWATER (ダーウェント・ウォーター)

ダーウェント・ウォーターは、古い英語から来た名前です。「檜の木に囲まれた澄んだ湖」を意味します。お天気と時間が許せば、車を止めて湖岸に沿って散歩します。ポローデイル溪谷も見える素晴らしい眺めを楽しむことができます。

ます。また、高くそびえるキャッスル・クラグ（隠遁者ミリカン・ダルトンの家）も見えます。昔の旅行者たちは「ボローデールの顎」と呼ばれたこの岩の塔を恐れていたそうです。多くの人々は「指輪物語（ロード・オブ・ザ・リングス）」の1シーンに似ていると感じるのではないのでしょうか。



8. SURPRISE VIEW (サプライズ・ビュー)

湖水地方の最高の景色のひとつに向かって、ダーウエント川とダーウエント・ウォーターの湖岸に沿って進みます。秋には樅やブナの森林地帯は赤、黄、オレンジなど美しく色付きます。急な坂道は右側の山の方へ登っており、イングランドで最もよく写真に撮られる橋のひとつと言われるアッシュネス・ブリッジを渡ります。この橋の上からは、スキドウ山やダーウエント・ウォーター、バセンスウェイト・レイクの美しい景色が見られます。この狭い道がかつてボローデイルとケズィックの街をつなぐ幹線道路だったとは信じ難いことです。今日、この道路は小さな集落までで終わっています。この集落はあまりに人里離れたところにあるため、1984年になってようやく電話線が開通しました。



サプライズ・ビューでは、雨の日でさえこの高みから見える景色に驚かすにはいられないでしょう。晴れた日にはイングランド地方の西海岸まで見渡すことができます。地平線の向こうに白い風車が見えますか？下方に見えるのはダーウェント・ウォーターです。この湖は最も幅が広く、かつ水深はわずか4.6メートルと最も浅い湖です。湖には4つの島がありますが、このうちダーウェント・ウォーター・アイランドと呼ばれる1つだけに人が居住しています。両側に木がある大きな家が見えますか？この家があまりに大きいため、ウィリアム・ワーズワースはこの家によって景観が損なわれる、と腹を立てたそうです。

ビアトリクス・ポターはこの島を定期的に訪れていましたが、1950年に島と家はナショナル・トラストに寄贈されました。島の居住者は年間3万6,000ポンドという莫大な賃貸料を支払っており、年間5日間は一般人にこの島を訪れることを許可するという義務もあります。

16世紀半ばにボローデイル近郊の山で鉛が発見され、ドイツから採掘のエンジニア達と呼ばれて来ましたが、地元民の敵対心から（ケズィックの女性にとってドイツ人の彼らは非常に魅力的に映った、という噂もあるように、主に男性のやきもちだったのでしょうか）ドイツ人たちはこの島に住むことを強制されたという話も残っています。

ケズィックの街はかつて鉛筆の生産で有名でした。現在では鉛筆の生産はされていませんが、街には鉛筆博物館があります。

9. BORROWDALE（ボローデイル）

ボローデイル渓谷にはスカンジナビア人が住んでいたことがあります。ボローデイルは「要塞の谷」という意味であり、多くの村の名前が「thwaite」（スカンジナビア語で「森の中の空間」の意）で終わるなど、土地の名前からこの事実が分かります。ロスウェイト（「岩だらけの空間」の意）の村にあるユー・ツリー・ファームというところで昼食のために休憩します。ここでは地元特産のハードウィック種のラム肉や手作りのスープのほか、村の人たちの手作りのケーキやスコーンなどを食べることができます。この農場は最近、BBCラジオ4や「ファーミング・トゥデイ」のグッド・フード賞などを受賞しました。



ハードウィック種のラム肉は湖水地方でも上等なレストランにのみ卸されています。ナショナル・トラストは「ユー・ツリー・ファームとボローデル・ハードウィックは英国で提供される地元の食べ物の最高の例だ」とコメントしています。



ボローデル渓谷はイングランド地方で最も雨の多い居住地区で、年間平均降水量は3,300ミリにのぼります。海に近いので、湖水地方は年間を通じて温度変化が比較的穏やかであり、1月の平均気温は摂氏3度、7月には摂氏15度となります。（同じ緯度のモスクワでは、摂氏マイナス10度から19度）

左側に見える高くそびえる岩肌は「キャッスル・クラグ」と呼ばれ、この頂上には古代英国のヒル・フォート（要塞）の遺跡があります。また、頂上近くにはミリカン・ダルトンと呼ばれる20世紀の隠遁者が家としていた人工の洞窟もあります。ミリカンは、都市の厳しい生存競争から簡素な生活へと脱出した国内最初の人と言われています。彼は冒険博士として知られ、ロッククライミングやセーリングなどを無償で人々に教えていたそうです。自身の服や道具を手づくりするなど1947年に80歳で亡くなるまで、非常に個性的な人物として知られていました。

10. HONISTER SLATE MINES（ホニスター・スレート鉱山）

ホニスター峠の頂上まで、荒々しい岩だらけの谷を通っていきますが、ここでは100年足らず前まで山から切り出したスレートを運ぶため、人が地上でも地下でも慌ただしく働いていました。これは骨の折れる作業でしばしば危険を伴い、事故も多く発生しました。今日、鉱山はスレートの産出のほか、地下鉱山のツアーを行う観光スポットにもなっています。



この辺の道路は非常に急な坂道になっています。ビクトリア時代に四頭立ての馬車でここにきた最初の観光客にとっては、ホニスター・パスを進むこの行程は旅の一番の難関でした。時折、観光客を乗せた三頭立てや四頭立ての馬車が通っていたことでしょう。道路の勾配があまりに急なところでは、馬が人を乗せたままで登ることができないため、乗客は馬車を降りて歩かなければなりません。現在では、私たちは歩かなくてもよいのはラッキーなことですね！

11. BUTTERMERE (バタミア)

バタミアは長さがたった1.6キロの魅力的な小さな湖です。太陽の位置によって、湖面の色が絶え間なく変わるのが見られます。かつてバタミアはクラモック・ウォーターとつながっていたこともあります。今では小さな地面で隔てられていて、バタミアの小さな村となっています。

村の中心はフィッシュ・ホテルです。200年前には、このオーナーの美しい娘マリー・ロビンソンが住んでいました。この美しい娘の話は国中に広がり、「バタミアの娘」として知られる湖水地方の宝物をひと目見ようと、多くの人が遠くからやってきました。1802年にホン・オーガスタス・ホープと名乗る男がマリーに求婚しました。男は25歳年上であったにも関わらず、マリーはこれを受け入れました。オーガスタスは裕福で立派なだけでなく、国会議員でもあるということでした。2人は地元で結婚し、すべてがうまくいっていった—2人の結婚に関するニュースがロンドンの新聞に掲載され、それを本物のホン・オーガスタス・ホープが読むまでは—。マリーの夫の本名はジョン・ハットフィールドといい、詐欺罪で囚われの身であっただけではなく、既婚で子供までいたのです。ハットフィールドは捕らえられ、詐欺罪で（既婚であったことに対してではなく、議員のサインを偽造したことの方が重婚よりも重い罪だったのです）裁判にかけられました。そして、カーライルの地で死刑となったそうです。



今日、湖の周囲の牧草地は酪農用に高品質な飼料を供給しています。「バタミア」という名前は「牧草地の傍にある湖」を意味します。近年はこの村で採れる牛乳で作られる、おいしいアイスクリームが地元の名物になっています。夏の暑い日には、必ず立ち寄りなければなりませんね！

12. CRUMMOCK WATER (クラモック・ウォーター)

クラモック・ウォーターは湖水地方でも最も美しい湖の一つであり、かつあまり知られていない湖の一つです。この湖まで、ウィンラター・パスを通り、国内でも最良のマウンテンバイク用の道がある森を抜け、さらに天気の良い日には海を越えて向こう岸のスコットランドが見える丘陵の細い道を進んで行きます。

この湖は長さ4キロ、水深44メートルで、人里離れたのどかな美しい場所にあります。ただし、ずっとのどかな地であった訳ではなく、900年前にはフランスから侵攻してきたノルマン人と地元カンブリア人との間の激しい戦闘場所となり、カンブリア人は侵攻を抑えることに成功しました。この戦いで、カンブリア人は山や森に隠れて左側に見えるラナデイルと呼ばれる狭い谷にノルマン人を追い込み討つ、といったゲリラ戦を繰り広げました。



13. BASSENTHWAITE LAKE OVERLOOK (バセンスウェイト・レイク)

エアラ・フォースを離れ、右手には素敵なマタデイル教会が見えてきます。この教会はエリザベス1世の時代に建てられ、1573年に完成しました。また、この周辺では、大型の灰色のリスの増殖により、湖水地方でも珍しい品種

となってしまった赤リスが見られるかもしれませんので注意して見ていてください。

いま、わたしたちは湖水地方の北部にいます。山々はヒースまたはヘザーと呼ばれる植物で覆われています。この植物については、エミリー・ブロンテの有名な本「嵐が丘」で読んだことがおありかもしれません。8月にヒースは美しい紫色になりますが、その他の時期には濃い茶色となり、丘陵の斜面を覆うシダの明るい茶色とのコントラストを成します。



バセンスウェイト・レイクは湖水地方では最北にあり、ただ一つ「レイク」と呼ばれる湖です。他のすべての湖は、「ミア」、「ターン」、「ウォーター」という名前が付いています。バセンスウェイト・レイクは水深が21メートルと浅く、ダーウエント・ウォーターと並んで「ヴェンデイス（サケ科の魚）」という絶滅の危機にある珍しい白身魚の唯一の生息地です。



14. THIRLMERE (サルミア)

私たちは、セントジョンズ・イン・ザ・ベイルと呼ばれる美しい谷間の農村地帯を通っていきます。ここでは季節によって、春の日差しの中で黒いハードウィック種の子羊が飛び跳ねたり、灰色の大人のハードウィック種の羊が

牧羊犬に追い立てられて群れを作る姿などを見ることができます。また、右側の草原に見える古い荷馬橋は、400年前に湖水地方から羊毛や石、材木などを馬に載せて運ぶ際に使用されたものです。



幹線道路に入ると右側に見えてくる大きな湖がサルミアです。サルミアはマンチェスターに飲料水を供給するために造られた人工湖で、1893年に完成しました。150年前、工業の急速な発展や清潔な水の不足から、都市に住む多くの人々が水質の問題による病気で亡くなりました。この湖を造るために谷は浸水し、2つの村が水没しました。当時、ジョン・ラスキンという思想家による地元の激しい抵抗もあり、ラスキンは「マンチェスターなど湖の底におけばよい」と非難していたようです。

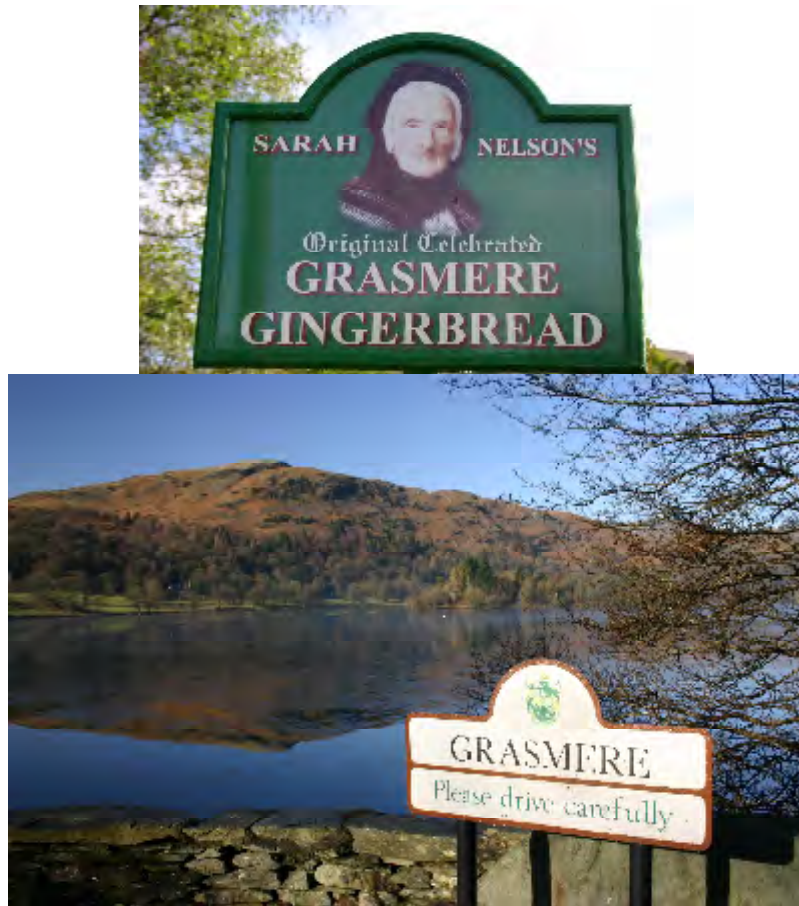
サルミアを離れ、道はダンマイル・レイズと呼ばれる峠（右側に見える、山と積み重なっているのが目印です）を登っていきます。これは945年にサクソン人との戦いで亡くなったカンブリア最後の王、キング・ダンマイルの埋葬場所と信じられています。



15. GRASMERE

グラスミアは、湖と村の両方に付けられた名前です。レッド・バンクと呼ばれる急な坂道を下っていくと、右側にグラスミア（湖）が見えてきます。グラスミアの村はサラ・ネルソンのジンジャーブレッド・ショップのほか、湖水地方の詩人、ウィリアム・ワーズワースゆかりの地としても有名です。ワ

ワーズワースはグラスミアを「地上で最も素晴らしい場所」と描写しました。ジンジャーブレッド・ショップはかつて村の学校でした。その横にあるのがセント・オズワルド教会です。この教会の建物は13世紀のもので、庭にはウィリアム・ワーズワースの墓があります。ワーズワースは、田園地帯を散策中に罹った風邪が原因で1850年4月23日に享年80歳で亡くなりました。



16. AMBLESIDE (アンブルサイド)

アンブルサイドの小さな街まで、グラスミアとライダル・ウォーターという小さな湖を通って行きます。グラスミアの真ん中にある木が茂った小さな島に気づきましたか？ここでワーズワースは妹ドロシーと一緒に、魚釣りに行ったり、ピクニックしたりしたことでしょう。近年、冬には湖が凍るため、水面を歩くこともできるようになりました。

ライダル・ウォーターは最も小さくて穏やかな湖のひとつで、条件さえ整えば、水面は完璧な反射をする鏡のように見えます。湖の端の右側に見える段々のある大きな石は「ワーズワース・シート」として知られており、この段の一番上からはワーズワースのお気に入りの風景のひとつを眺めることができます。

ライダル村はライダル教会とライダル・マウント（ウィリアム・ワーズワースの最期の家）の周りにある小さな集落です。教会の横には、ワーズワースの最愛の娘を記念してドラズ・フィールドと名付けられた小さな野原があり、春になると水仙が一面に咲きます。



アンブルサイドへの入口は、右側に見えるブリッジ・ハウスと呼ばれるイングランドで最も小さな家が目印です。この小さな家は18世紀初期に土地税の支払いを避けるために川の上に建てられました。もともとリンゴを売る店として使用されていましたが、かつて8人家族が住んでいたこともありました。現在はナショナル・トラストが所有しており、インフォメーション・センターとして使用されています。



今日アンブルサイドで見られる灰色の石造りの建物の多くがビクトリア時代のものです。当時、人々は電車でウィンダミアまで行き、ウィンダミア・レイク・スティーマー（蒸気船）でアンブルサイドへ移動していました。大きな家々は裕福な実業家たちによって建てられ、ますます増加する訪問者のためにホテルも開発されました。

17. WINDERMERE（ウィンダミア）

ウィンダミア（湖）に沿って進み、人口約1万人のウィンダミアとボウネスの街に向かいます。1891年に進水した「ターン」という名のビクトリア時代からの蒸気船がまだ健在で、今日でも観光客を運んでいる姿を見ることができます。ウィンダミアは長さ18キロとイングランドで最も長い湖です。毎年、慈善活動への募金のためこの距離を泳ぐ人たちもいます。



1884年にはケズィックからウィンダミアまで（ミニバスではなく）馬車でわずか45ペンスで旅行することができたでしょう。ただし、幌の内側の座席を確保するための追加料金を払わなければ、雨で濡れてしまう可能性もありました。

当時、オールド・イングランドのような一部のホテルは宿泊客のために専用の馬車を用意していました。素晴らしい観光の後、客は美しく飾りつけられたテーブルについて、3種類の魚料理と16種類の肉料理から選べる食事を楽しんでいたことでしょう。

今日、ボウネスとウィンダミアには食べる場所がたくさんあり、オールド・イングランド・ホテルでのアフタヌーンティーから湖のほとりにあるフィッシュ・アンド・チップスまで様々な味と価格帯のものが食べられます。

このツアーは、湖水地方の最高の場所をご案内する2つのガイド付きツアー、ロンドンからの往復列車チケット、湖水地方の駅からの送迎とB&B（宿泊）を含む“湖水地方ツアーパッケージ”としてマイ・バスで予約することができます。

MyBus UK Dorland House, 14-20 Regent Street, London SW1Y 4PH
Tel: 020-7976-1191 / Fax: 020-7976-1192 / e-mail: info_uk@mybus-europe.com



TO BOOK THIS TOUR
TEL: 00 44 (0) 15395 52106
EMAIL: sales@lakedistricttours.com
WEB: www.lakedistricttours.com